

特集

# 北陸新幹線

## 福井開業にかかる期待



3月16日に北陸新幹線の敦賀延伸、福井開業を控え、本誌では新年号・2月号の2号連続企画で北陸新幹線福井開業について特集する。

前回、新年号では福井開業に至るまでの約半世紀に及ぶ道のりや、先行開業した金沢、富山での実績を踏まえた開業効果について紹介した。2月号では、県内のビジネスパーソンや関係者が感じる期待度や取り組みについて紹介する。

## 百年に一度の好機がやってくる

福井開業への  
県内ビジネスパーソンの期待度は？

北陸新幹線の県内開業に向けては、試験走行の実施や歓迎イベントの開催、各種メディアで連日トピックスが上がるなど、開業日が近づくにつれて日々盛り上がりを感じられるようになった。実際のところ、県内のビジネスパーソンは福井開業をどのようにとらえているのだろうか。まずは、当所が実施した「北陸新幹線福井開業に向けた期待度調査」の結果から、福井のビジネスパーソンの北陸新幹線福井開業に対する期待度や意見を見ていく。

### 〈調査概要〉

調査期間

1月12日～26日

調査方法・対象

福井商工会議所LINE公式  
アカウント登録者へのアンケート

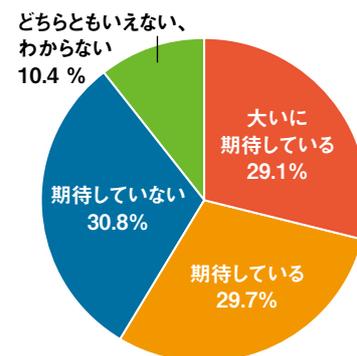
回答数

182件

北陸新幹線の県内開業にあたっての率直な期待感については、「大いに期待している」「期待している」との回答が、58.8%。「期待していない」「どちらともいえない、わからない」

が41.2%となった(グラフ1)。期待しているという回答が半数を超えたが、期待していない、開業効果が不明瞭と感じている人も4割超存在することが浮き彫りとなった。

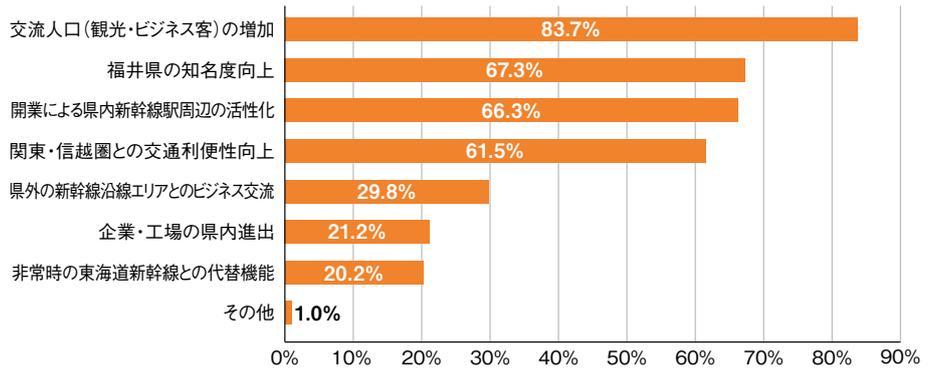
グラフ1 北陸新幹線県内開業への期待感



### 期待の理由

期待していると回答した方に、その理由を尋ねたところ、「交流人口(観光・ビジネス客)の増加」が83.7%で最も多く、「福井県の知名度向上」67.3%、「開業による県内新幹線駅周辺の活性化」66.3%と続いた(グラフ2)。業種ごとに見ても回答結果は概ね変わらず、交流人口の増加を最も期待するとの声が多かったが、建設・不動産業では、「関東・信越圏との交通利便性向上」の回答が最多となった。

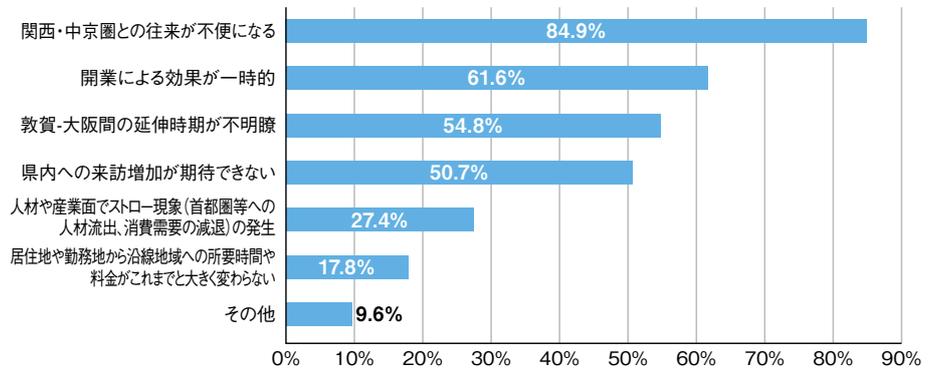
グラフ2 「大いに期待している」「期待している」の理由(複数回答)



期待できない理由

「期待していない」「どちらともいえない、わからない」と答えた方にその理由を尋ねたところ、「関西・中京圏との往来が不便になる」が84.9%で最多となり、「開業による効果が一時的」61.6%、「敦賀・大

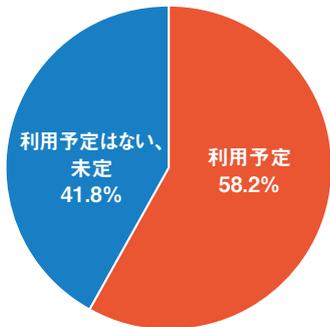
グラフ3 「期待していない」「どちらともいえない、わからない」の理由(複数回答)



阪間の延伸時期が不明瞭」54.8%と続いた(グラフ3)。

関西圏と直通となり、利便性が増す一方で、これまで特急で直通していた関西・中京圏との往来に敦賀での乗り換えが必須となる。開業後は、北陸新幹線と特急列車の利用により、所要時間はこれまでよりも短

グラフ4 福井開業1年以内の北陸新幹線利用予定



縮されるが、乗り換えの手間がかかることに對する不満も大きいことが窺える。  
また、その他の意見として、「観光客が訪れる場所に店舗の立地がない」「駅前の整備が不足している」などの意見が見られた。

開業後の北陸新幹線利用予定

福井開業後1年以内の北陸新幹線の利用予定を尋ねたところ、「利用予定」と回答したのは、58.2%であった(グラフ4)。利用する場面については、出張と旅行での利用が主となった。

福井開業に併せた自社の取り組み  
福井開業に併せた自社での取り組み

みについて予定も含めて尋ねたところ、東京をはじめとした沿線地域への営業販路拡大や、新規事業・商品の開発を行うという意見が目立った。その他、おもてなし力の醸成やSNSでの発信強化などが挙げられた。

調査の結果から、新幹線福井開業にかける期待の声は大きい、「どれくらいの方が新幹線でやってくるのか」「関西・中京圏との利便性はどうか」「開業を迎えてみると分らないものであり、現時点で期待と不安が入り乱れることも必然といえる。

新幹線開業の効果を真に享受できるのは、3月16日の開業後だ。その日を起点に、多くの観光・ビジネス客が来県し、新たな施設のオープンや、各種イベントが開催され、変化が目に見えて現れる。金沢市が開業後に予想を大きく上回る経済効果を生んだことを考えれば、数年後同様の調査を行った場合、結果が大きく変わることも想定される。

次ページからは、北陸新幹線福井開業と同時に大きく生まれ変わる2つの施設から、福井開業にかける期待や想いを伺う。

# 老若男女が集う 福井の発信拠点へ



金沢ターミナル開発(株)  
福井支店長 和田 豊和氏



北陸新幹線の福井開業日にオープンするのが、ショッピングセンター「くるふ(CURU-F) 福井駅」である。昨年まで同地で営業していた「プリズム福井」の後継として、新幹線開業を機に大きく生まれ変わる。

今回は、同施設を運営する金沢ターミナル開発(株)福井支店の和田豊和支店長に、北陸新幹線福井開業に寄せる期待と、「くるふ福井駅」が担う役割を伺った。

## 福井開業への期待

福井開業を契機に、インバウンドを含め主に首都圏からの観光光・ビジネス客の大幅な増加が見込まれる。これを踏まえて和田氏は「首都圏からの観光客は他地域と比較して滞在期間や消費額が大きい傾向にあり、経済効果は数値以上のものがあるだろう」と期待を寄せる。また、福井駅周辺の再開発による、にぎわい創出や、二次交通の整備を受け、県外客のみならず、県内からの福井駅周辺への交流人口増加にも期待を寄せる。

## 福井の魅力発信拠点へ

館名は公募で決まったもので「来る(CURU)」と「F」を組み合わせた造語である。「F」には、福井のFやFun(楽しみ)、Family(家族)、Future(未来)などさまざまな意味を込めた。館内には、銘菓や海産物、地酒などの逸品やバラエティ豊かな食事処など40以上の店舗が軒を連ね、福井の魅力が詰まっている。

和田氏は「県下最大のハブステーションである福井駅に直結する商業施設として、県外客に福井の食や、幸福度日本一の福井の魅力を感じてもらいたい。



自由通路や西側の壁面はガラス張りに。にぎわいや存在感がより感じられるようになる。

また、総菜や生活雑貨店の出店で、地元の方々の日常をより豊かにするような、訪れた方がさまざまなFと出会えるような施設にしたい」と語る。

## 人を惹きつける

### 駅周辺を作り出す

県内では、大きな駐車場を持つ郊外の商業施設を利用するライフスタイルが定着している。一方で、福井駅周辺の昼間人口は、夜間人口の約25倍で、その構成は学生や就労者が多いが、プリズム福井時代はこの昼間人口の利用を十分に取り込めていなかった。こうした課題に対し、くるふ福井駅では、新幹線開業に起因する再開発や様々な取り組みを活かして、観光・ビジネス客に加え、地元のニーズにも即した商品を揃え、自治体や周辺施設との連携を密にしながら、にぎわいを創出し、地元住民の集客を図る。和田氏は「こうしたにぎわいづくりをもって、顧客提供価値の最大化を図り、新幹線開業効果を最大化したい」と抱負を語った。

# 京都再生の ランドマークへ



福井駅前電車通り北地区  
A街区市街地再開発組合  
理事長 市橋 信孝氏



北陸新幹線の開業に併せ、福井駅西口の再開発によって誕生するのが「FUKUMACHI BLOCK」だ。通称『駅前三角地帯』の東側一帯に位置し、福井駅西口から出た利用者が正面に見ることになり、いわば福井の顔となる。商業、宿泊、住居、オフィスなどさまざまな施設が整備された都市機能の強化を担う複合施設であり、新幹線開業日に一部が先行開業し、順次オープンが予定されている。

今回は、同エリアの再開発事業を担う、福井駅前電車通り北地区A街区市街地再開発組合の市橋信孝理事長に話を伺った。

## 福井開業への期待

ふくまちブロックは新たな福井のランドマークとして、福井ならではの文化を生み出すエリアを目指している。北陸新幹線が開業し、多くの観光客などの来福が予想される中で、本施設を通して、福井の文化や風土、食、人、産業などを発信することで、福井へのイメージを一新

させたいという。



ふくまちブロックの構成図

## 目指す駅前の姿

ふくまちブロックでは、県外客、地元客共に楽しい時間を過ごしてもらおうためのフードホールやホテル、広場、また普段のにぎわいを感じられるオフィスや住宅、フィットネスジムを整備した。こうした今までの中心部にはない複合的な機能をさまざまにつなぎ合わせ、福井ならではの新たな価値を提供し、まちと人との関わりが繋がりに続ける街区を目指している。

市橋氏は「20年前に県外から福井に戻ってきた際に見た福井駅周辺は、建物などは昔のまま変わらないのに、活気の面では人が減り変わってしまった。今回の再開発を通して、これまでの延長線上ではない、人が集まる新たな駅前を作り上げたい」と意気込みを語る。今後、三角地帯の西側（B街区）や南通りの再開発に併せて地域一体での連携強化を目指す。

また、施設としては、まずは地元の人に満足してもらえような施設を目指し、それが結果として、県外の人にも満足してもらえる施設になることにつながる。市橋氏は「新しい建物を建てるのが目的ではなく、これをきっかけに福井のまちの発展につなげていくことを第一に考えている。新幹線開業により福井のまちに新しい人たちが加わる。その多くの人が、プレーヤーとして参画し交わることでまちを作り上げていく。そのために役立つ玄関口となるような施設としていきたい」と締めくくった。

一般財団法人北陸経済研究所でさまざまな調査研究を行い、新幹線に関する著作や講演を多数手掛ける藤沢和弘氏に、北陸新幹線福井開業による効果や期待を伺った。



一般財団法人北陸経済研究所  
調査研究部 担当部長 藤沢和弘 氏

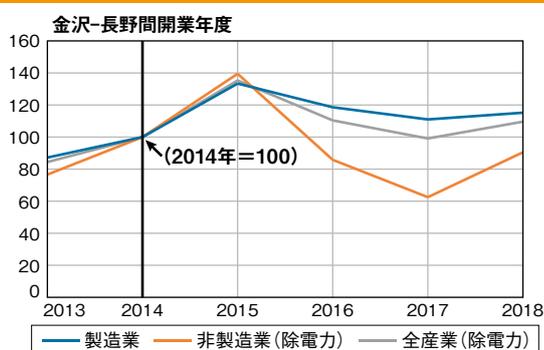
北陸新幹線福井開業で  
期待がかかるポイント

① 設備投資の増加と  
企業・工場誘致の促進

新幹線開業という観光面での効果が期待されるが、速達性の向上により製造業を中心に、本社・工場移転や、地元企業の機能拡大に繋がる期待も大きい。先行開業した金沢・富山では、

ファスナーなどを手掛けるYKKグループや、建設機器大手のコマツなどが本社機能の一部を移転し、地元企業でも設備投資の増加や、本社機能の強化拡充の動きが見られた。(図1)  
福井開業においても同様の効果が期待され、ものづくり県としての更なる発展が予見される。また、工場の拡張による他地域からの従業員の移住で定住人口増加も期待でき、総じてみれば観光面よりも大きな効果が生まれることも考えられる。

図1 北陸地域の設備投資水準の推移



出典：日本政策投資銀行「北陸新幹線開業5年目の交流人口変化がもたらす富山への経済波及効果」

② 北陸地域間の連携強化

富山での開業時は当初、観光客の集客にあたり、金沢と張り合う意識が強かったが、最近では自治体同士の関係強化を経て連携意識が高まっている。福井開業においては、先に発生した能登半島地震のことを踏まえて、北陸地域の連携がより一層、強化される機会になると考えられる。北陸圏内での人の動きの活発化や、東京圏だけでなく、京都や大阪側からの迎え入れ強化など、地域一体での取り組みが広がるだろう。

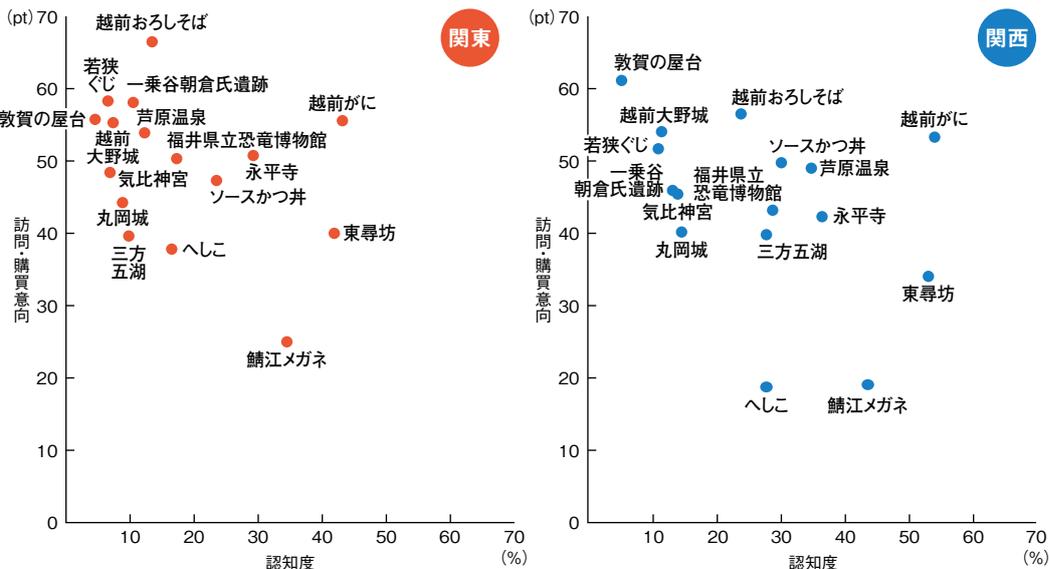
開業効果の持続に向けた  
コンテンツとは

新幹線開業で見込まれる観光客の増加を一時的なものに終わらせないためには、人を継続的に呼び込めるコンテンツの存在が重要となる。具体的には、100万人を集客できる観光施設や資源であり、県内では恐竜がそれに最も近い(恐竜博物館・かつやま恐竜の森への令和4年度推計県外観光客入込数が約90万人…出典 福井県)。

この規模のコンテンツにまで成長すれば、たとえば、福井駅前の恐竜広場を見るために下車してくれる人も出てくるようになる。そこから恐竜博物館などの観光面にとのように結び付けるか、たとえば、広場から博物館への直行バスの利便性を高めるなど、駅前からの広げ方を考えなければならぬ。

コンテンツの醸成にあたっては、現時点で既に一定の支持があることが好ましく、開業の波に乗ってもゼロから作り上げることは難しい。福井県内の観光資源に目を向けると、認知度こそ低いものの、潜在能力が高いコンテンツ候補が多く眠っている。図2(次ページ)は認知度と訪問・購買意欲の関係を示したもので、認知度に対して、訪問・購買意欲が高い観光資源が多くあり、新幹線開業を契機に関東圏での認知度を伸ばして、花形の観光資源となる可能性を秘めている。こうした優れた資源にさらに磨きをかけるような取り組みが、長く開業効果を持続させるために必要となるだろう。

図2 福井県の観光資源の認知度と訪問・購買意向の関係



出典：富山国際大学 大谷 友男 准教授「北陸新幹線沿線の観光資源に対する認知度と訪問意向」  
 『北陸経済研究』2024年2月号P14-25 (一般財団法人北陸経済研究所)

開業後を見据えて  
 新幹線開業はゴールではなく、あ  
 くまで通過点であり、新幹線効果を  
 最大限享受するためには、開業後を

いこともある。そこで当所では、沿  
 線の商工会議所との経済交流会を開  
 催し、開業後の誘客や企業の事業拡  
 大に向け、双方方向の観光・ビジネス  
 など、さまざまな面での活性化に向

見据えた取り組み  
 が重要だ。

福井商工会議  
 所では、今後に向  
 けた取り組みの一  
 つとして北陸新幹  
 線沿線地域との交  
 流強化に積極的に  
 努めている。北陸  
 新幹線の利用によ  
 り、東京のみなら  
 ず、沿線の埼玉、

群馬、長野間の所  
 要時間も大幅に縮  
 まる。一方で、福  
 井県側では開業に  
 よる盛り上がり  
 必然に見えても、  
 沿線地域から見  
 と、どれだけ福  
 井が身近になるの  
 か、どのような効  
 果があるのかなど  
 を把握されていな

けた取り組みを進めている。他にも、  
 福井の菓子店などと恐竜をコラボし  
 たスイーツ土産ブランド「ふくいD  
 NAキッチン・スイーツダイナソー」  
 を立ち上げ、福井だからこそ味わえ  
 る魅力のスイーツを持続的に発信す  
 る取り組みを行っている。

大阪までの全線開通について

アンケート調査結果にもあったよ  
 うに、北陸新幹線に対する不安とし  
 て敦賀以西の延伸が不明瞭な点を挙  
 げる声も多くみられた。

敦賀以西については、複数のルー  
 ト案が候補に挙がっていたが、平  
 成28年に小浜→京都ルートが、翌  
 29年に京都→新大阪のルートが決  
 定した。一方で、着工スケジュー  
 ルなどは未だ示されておらず、全  
 線開通までの道のりは遠い。北陸  
 新幹線の効果を最大限発揮するに  
 は大阪までの延伸が必須であり、  
 その早期実現が望まれる。大阪・  
 京都・神戸・大津・金沢・富山・  
 福井の7つの商工会議所で行く  
 「北陸・関西連携会議」でも早期全  
 線開通を最重要課題として、各地  
 域の経済界が一丸となって押し進  
 めていくことを決議した。

北陸新幹線ルート図



出典：北陸新幹線建設促進同盟会ホームページ

本誌で2号続けて特集した北陸新  
 幹線だが、その開業は目と鼻の先だ。  
 先人達が苦勞の末に敷いてくれた開  
 業までのレールの上で、新幹線をど  
 う活かしていくかが私たちの役目と  
 なる。今回は開業前時点での期待を  
 伺ったが、その期待に答えられるか、  
 また、課題の解決には、行政・経済  
 界・県民が一体となった取り組みが  
 必要である。100年に一度ともい  
 われるこの機会、県民自身が地域を  
 動かすプレイヤーになるという意識  
 を持って福井を生まれ変わらせなけ  
 ればならない。